

胸腺腫と多能性幹細胞



東京大学大学院
医学系研究科
病因・病理学専攻病理
学講座 分子病理学分野
准教授 山田洋介

2025年7月22日 (火)
17時半～19時
金沢医科大学 医学教育棟 4階 E41

私は、大学院在籍時に、胸腺に生じる代表的な腫瘍である胸腺腫が、胸腺皮質上皮細胞に特異的な分子である胸腺プロテアソームサブユニット $\beta 5t$ を発現することを報告しました。以後これまで、胸腺腫や胸腺がんのユニークな発現プロファイルを継続的に発表してきました。同時に、腫瘍や細胞がもつ特性を明らかにするには、培養細胞、遺伝子改変動物等を用いた実験病理学研究も必要であると考え、特に多能性幹細胞や細胞初期化技術をテーマとする研究に関わってきました。

本セミナーでは、大学院在籍時からこれまでの私の臨床病理(人体病理)学研究と実験病理学研究を紹介し、(語弊があるかもしれませんが)臨床研究と基礎研究の両者に携わることの意義をお話しできればと思います。

- Yamada et al. Expression of proteasome subunit $\beta 5t$ in thymic epithelial tumors. Am J Surg Pathol. 2011
- Hashimoto and Yamada et al. Cellular context-dependent consequences of Apc mutations on gene regulation and cellular behavior. Proc Natl Acad Sci U S A. 2017
- Yamada et al. A Tuft Cell-Like Signature Is Highly Prevalent in Thymic Squamous Cell Carcinoma and Delineates New Molecular Subsets Among the Major Lung Cancer Histotypes. J Thorac Oncol. 2021

2005年	金沢大学医学部医学科 卒業
2011年	北海道大学大学院医学研究科 修了
2012年～2016年	京都大学iPS細胞研究所 研究員
2018年～2019年	ハイデルベルク大学医学部病理学教室 研究員
2020年～2024年	京都大学医学部附属病院 臓器移植医療部 講師
2024年2月～	現職